

箱庭療法における作り手と見守り手の関係性の構造についての理論的検討

現代システム科学研究科 山村裕大



1. 箱庭療法とは

- イメージに基づく心理療法である。
- 見守り手のもとで砂が敷き詰められた砂箱に自由にミニチュア配置して、自分の世界を表現する
- さまざまな心の問題や症状に対する有効性が示されている（Roesler, 2018など）。

2. 背景

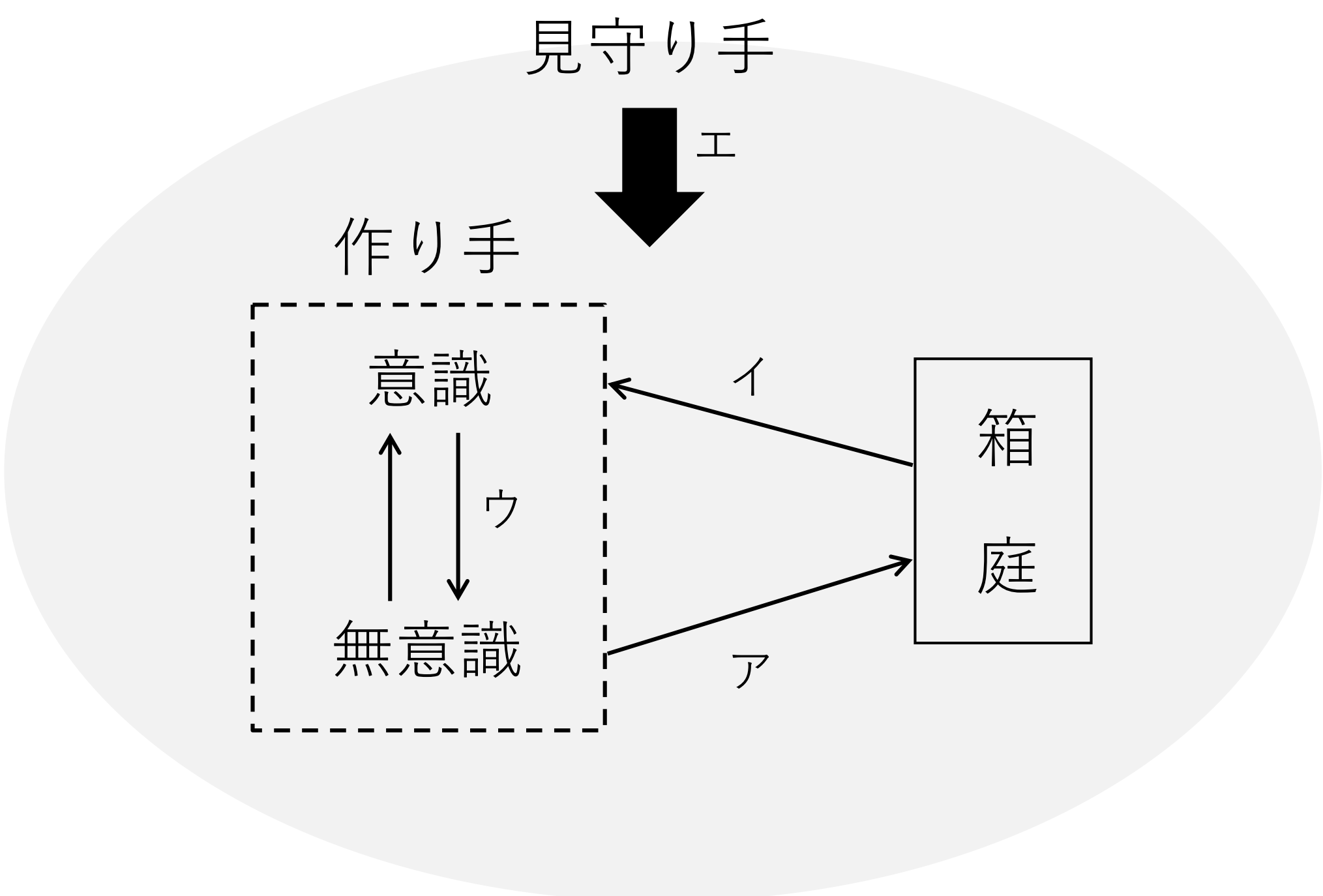
- 心理療法において治療者と患者の関係性が治療要因として最も大きい（杉原, 2020）。
- 箱庭療法では、見守り手がほとんど「何もしない」にもかかわらず治療が進展する。

問い
作り手と見守り手の間で何が起きているのか？

3. 研究目的

- ① 理論的検討を通して箱庭療法における作り手-見守り手-箱庭の関係性をモデル化すること。
- ② 箱庭療法の進展と作り手-見守り手の関係性の関連について仮説を探索すること(進行中)。

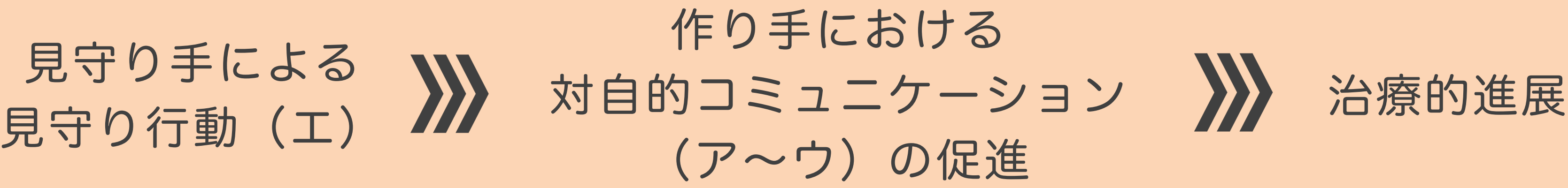
4. 箱庭療法における関係性のモデル



- ア 箱庭制作による砂箱への作り手の無意識的内容の反映
- イ 箱庭から作り手への視覚的、触覚的なフィードバック
- ウ 作り手における意識と無意識の交流
- エ 見守り手の見守り行動や態度

Figure 1. 対自的コミュニケーションと見守り手の機能（山村）

箱庭療法の治療プロセス



5. 実験的研究（進行中）

- 見守り手と作り手の相互交流を行動・主観指標から明らかにする。
- 箱庭療法の進展と両者の関係性の関連について仮説を探索する。